



# 福島南ロータリークラブ

基本方針：ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

事務局/〒960-8151 福島市太平寺宇通吹 6-2 サ・36・メイファイブ 1F2号室  
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878  
例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30  
tel. 024-523-3811 (代) fax. 024-523-0375  
HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



■会長：大野順道 ■幹事：金子親房  
■会報委員長：丹治洋子 ■副委員長：佐藤朋也  
■委員：穴戸清和 菅野良二 吉田仁一 渡辺勇

## 第5回例会

平成 25 年 7 月 31 日 (水) サンパレス福島

■会員/69名 ■出席/44名 ■出席率/63.77% ■メイクアップ/25名 ■修正/69名 ■修正率/100.00%

### 本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 ロータリーソング 奉仕の理想
- 3 四つのテスト
- 4 来訪者紹介と会長挨拶
- 5 米山奨学生奨学金授与
- 6 クラブ臨時総会
- 7 ターゲット贈呈
- 8 ロータリー財団功労者並びに  
米山功労者へ感謝状の贈呈
- 9 幹事報告
- 10 閉会点鐘
- 11 家族納涼パーティー

### 会員の広場

今回の家族納涼会は、鈴木光一親睦委員長が中心となり、大人の部と子どもの部に分かれて大クイズ大会となりました。大人の部の第1位は藤原和雄委員、子どもの部の第1、2位は大野順道会長のお孫さん、第3位は赤間浩一会員のお子様でした。大変な難問の中、入賞された皆様おめでとうございました。

### 今日の一面記事

8 日から始まる全国高校野球選手権大会の出場 4 9 校が出揃った。地方大会決勝で引き分け再試合を勝ち抜いたチームもある。どのユニフォームにも、憧れの地を目指し努力を重ねた球児の汗と涙がにじんでいよう。先の大戦では、甲子園で松井選手とともに戦った選手の多くが命を落とした。戦後 6 8 年。思う存分、白球を終える平和の尊さをかみしめる。(読売)

## ◆会長あいさつ◆ 大野 順道 会長



皆さん こんばんは。本日は大勢のご家族の皆さん、ようこそお出で下さいました。私は、この7月より福島南ロータリークラブの会長を務めております大野です。そしてこちらが、幹事の金子親房さんです。どうぞ宜しくお願い致します。7月27日地区社会奉仕委員会セミナーがあり廣澤俊樹委員長に参加して頂きました。御苦労さまでした。後日報告して頂きます。7月28日には福島南RCゴルフ部会の第1回競技会と総会がありました。優勝されました高橋和之会員おめでとうございます。前鈴木定男ゴルフ部部長には御苦労様でした。国分秀夫部長には、今年度よろしくお願い致します。

さて、この後は家族納涼パーティーです。鈴木光一委員長始め、親睦委員会の皆さんが何度も打ち合わせて準備して下さいました。うっとりしい天気を吹き飛ばすように、大いに楽しみ、また親睦を深めて頂きたいと思致します。皆様に感謝申しあげまして、御挨拶と致します。

## ◆米山奨学生奨学金贈呈◆ 台湾 江 沛勲さん



## ◆ターゲット贈呈◆ 大野順道会長一紺野仁昭直前会長



## ◆ロータリー財団功労者並びに 米山功労者へ感謝状の贈呈◆

### ●マルチプル4回ピンズの贈呈



佐久間 功 会員

### ●米山功労者表彰

- |     |       |    |
|-----|-------|----|
| 第3回 | 佐久間 功 | 会員 |
|     | 菅原 節子 | 会員 |
|     | 佐藤 誠  | 会員 |
| 第2回 | 斉藤 信男 | 会員 |
|     | 斉藤 善重 | 会員 |
|     | 穴戸 清和 | 会員 |
|     | 林 克重  | 会員 |
| 第1回 | 伊藤 弘子 | 会員 |
|     | 金子 親房 | 会員 |
|     | 國井 元  | 会員 |



## ◆幹事報告◆

- 8月15日福島市音楽堂 未来の光と風
- 8月27日会長・幹事会
- 8月28日ゲストスピーチ

## ◆家族納涼パーティー◆

- 開会挨拶 鈴木光一 親睦活動委員長



### ●会長挨拶 大野 順道会長



### ●乾杯

パスト会長 野地利雄



### ●お食事



### ●クイズグランプリ



### ●「手に手つないで」



## 一編集後記一

福島南ロータリークラブ入会以来親睦委員を務めて来た私でしたが、今回はクラブ会報委員として納涼会の記録係となりました。今までとまた違った新鮮な感覚でした。(丹治洋子)